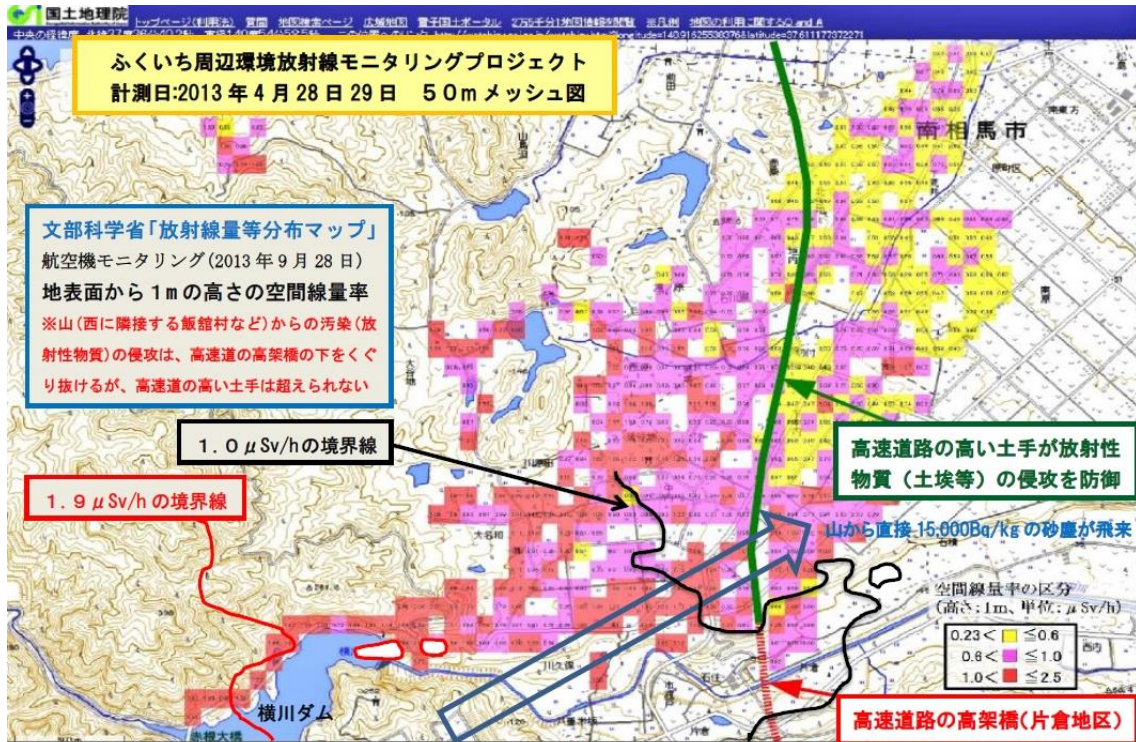
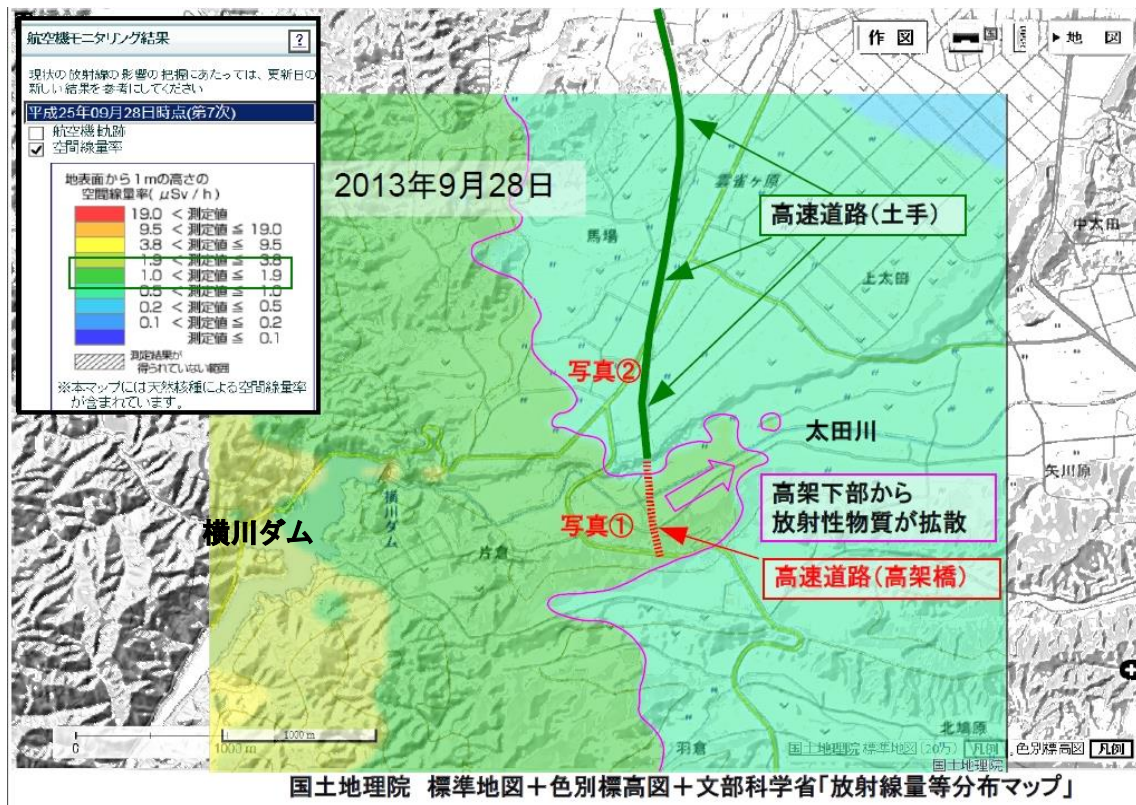


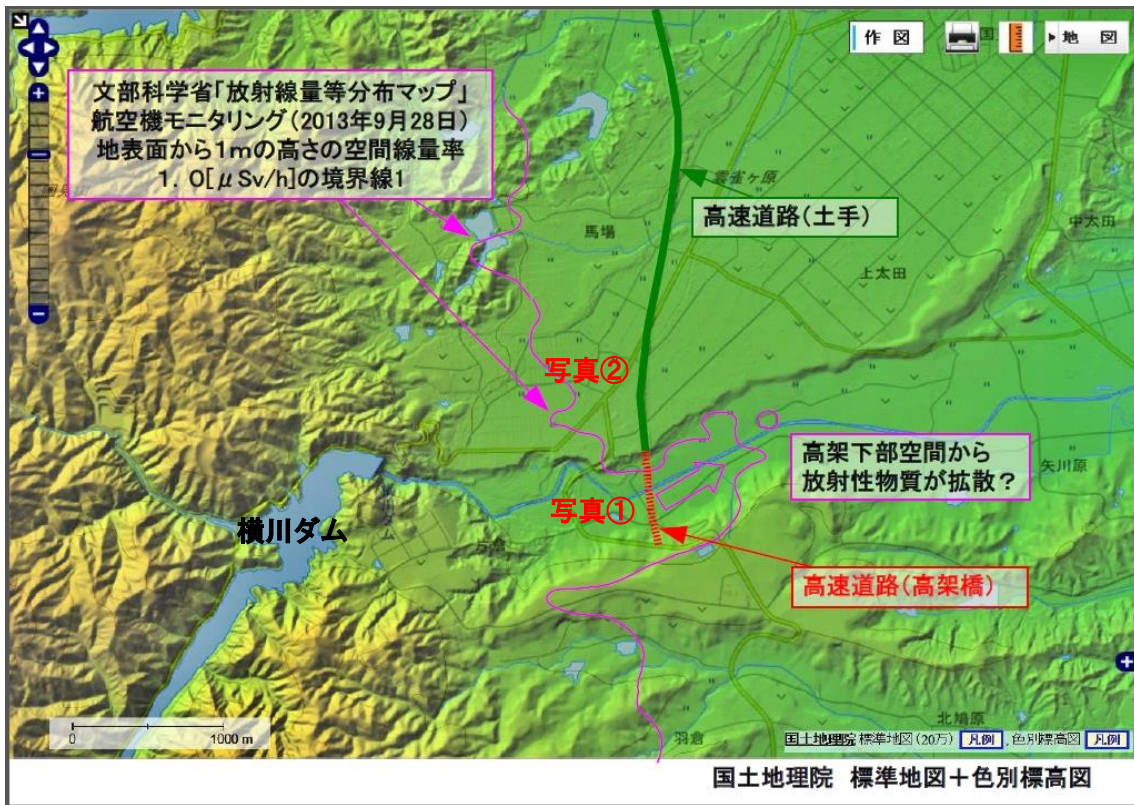
【資料：南相馬市における、放射性物質の山（西側）から侵攻と車両等による拡散、放射線量増加の問題】

D. 国や専門家は、自然界での放射性物質の挙動を知らない



E. 放射能は土埃と共に土手で止まり、高架橋をくぐり抜ける





※2014年10月24日、原子力災害現地対策本部長（高木陽介経済産業副大臣）が言い放った「放射能は飛ばない」とは根拠のないデタラメであり、文部科学省の航空機モニタリングのデータを精査すれば、地形や風等の影響により土埃（放射性物質）が山（西に隣接する飯館村など）から侵攻していることがわかり、この傾向が永遠に続くことが理解できる。

① 高速道路の高架橋（片倉地区）



② 高速道路の土手（馬場地区土手）

